こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

教義

この宗派は、どのような教えなのだろうかと確認したいとき、

便利な検索方法が「〇〇宗の教義」と入力することです。

本願寺派ももちろん教義があります。もし経本をお持ちでしたら、最初の方に記載されています。

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

いかがでしょうか。よく、私は信心深くない、あの人は信心深いという声を耳にいたしますが、そもそも信心とは私が積み上げていくものではないのです。阿弥陀如来がよく思案し、修行を完成し、その功徳の力によって、私の元に恵まれているのです。その恵みは、老若男女問わずに届けられており、その届けられた証拠が南無阿弥陀仏の念仏なのです。

そして、この世の縁が尽きるとき仏になり、迷いの世に還り、人々を教化するとありますので、死んだらおしまいではなく、仏のご縁としてつながるのです。

行儀

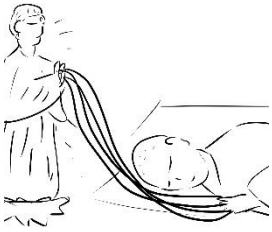
「行儀よくしなさい！」「お行儀が悪いですよ！」なんとなく情景が浮かんでくるような言葉です。この「行儀」は、もともと仏教用語だったのです。

広辞苑で引きますと、

①修行・実践に関する規則。また、仏教の儀式。②立ち振るまいの作法。③行為、行状

とあります。まずでてきますのが、仏事や修行の作法の事です。浄土真宗においていいますと、七高僧の一人善導大師が様々な儀礼作法を整えられています。法事や法要などで最初に「奉請弥陀如来入道場散華楽」と称えます。阿弥陀如来、法要の準備が整いましたのでどうぞお越しくださいと称えているのです。この形を整えられたのは善導大師です。

また、源信和尚になりますと、臨終の行儀として、臨終の念仏を勧められました。その後、臨終の念仏ではなく、平生の普段の生活の中での念仏こそが大切であると法然聖人は選択念仏のみ教えを広められました。



行儀という言葉は、以外にも浄土真宗では深いかかわりのある言葉であります。